

えひめの歴史文化モノ語り

県歴博収蔵資料から ⑬

「四国霊場名勝記」は明治期に四国霊場を撮影した最古級の写真集である。明治42（1909）年の出版で、発行人は大阪市の西尾為次郎、印刷者は藤井由翠堂、発行者は西尾多満彌堂と記されている。

冒頭に弘法大師御影を掲げ、東寺、高野山奥之院、発行人の所在地にある摂津国八十八ヶ所霊場の一つである和光寺（大阪市西区）と境内にある阿弥陀池の写真を掲載。以下、

四国霊場の最古級写真集



①明治後期の45番札所岩屋寺。左から二王門と大師堂が並ぶ
②江戸時代から難所として知られる室戸阿南海岸「はね石・ごろごろ石」
＝いずれも「四国霊場名勝記」（個人蔵）より、県歴史文化博物館保管

明治の札所様子伝える

「四国霊場名勝記」は明治後期の四国遍路の様子を垣間見ることができ、

上の写真は一遍上人ゆかりの修行地として知られる

45番札所の岩屋寺（久万高原町七鳥）の二王門と大師堂周辺の様子が写し出されている。二王門は入母屋（いりもや）造りの草葺（くさむき）

本書は明治時代初期の様子を伝える貴重な写真資料

きで、現在の大師堂（大正9年建立、国重要文化財）以前の旧大師堂の姿、境内を囲む塀などが造られている途中とみられ、その資材と思われる板材が多く置かれるなど、当時の境内の様子がつぶさに確認できる。

もう一枚の写真は、高知

市（専門学芸員・今村賢司）のテーマ展「ぐらり四

市）のテーマ展「ぐらり四

市）のテーマ展「ぐらり四